

岸上伸啓

2024 「北米での北方研究 35 年を振り返る」北海道立北方民族博物館講座、同館講堂  
(オンライン併用) (2024.2.18)

岸上伸啓

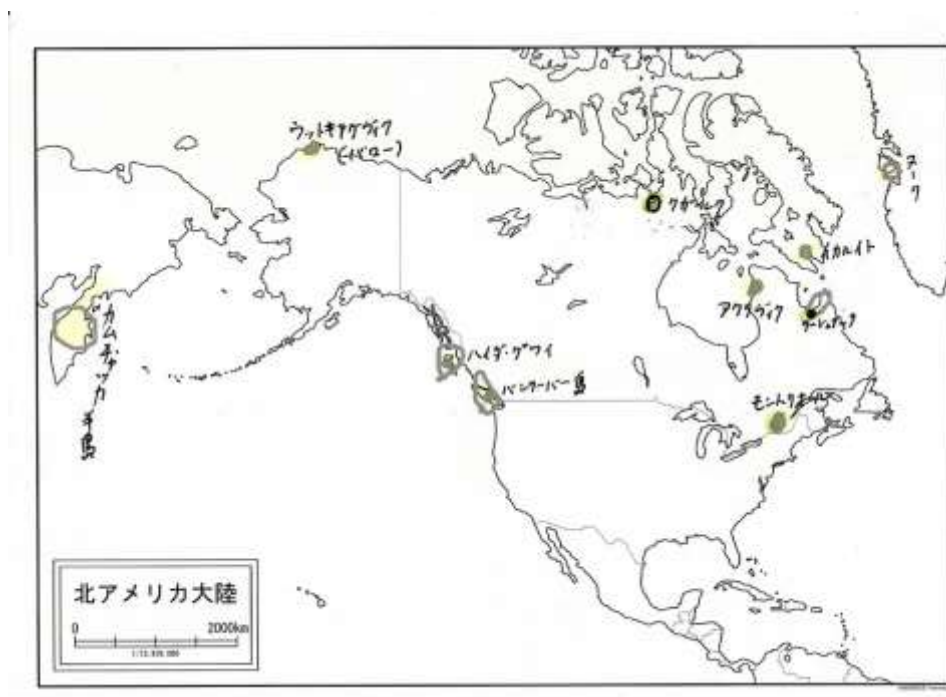
(国立民族学博物館・総合研究大学院大学)

\*北海道立北方民族博物館講座、2024 年 2 月 18 日 (日) 10:00-11:30

## 1. はじめに

- ・2024 年 3 月 31 日に退職予定
- ・これまでの北方先住民調査を振り返る。
- ・カナダ・極北地域で調査を始めてから 40 年
- ・1996 年 1 月に民博に北教大から移動。研究地域とテーマが広がる。

## 2. おもな調査地



地図1 主な調査地域 (1984～2024)

\*極北地域のカナダ・イヌイット研究（生業活動、家族・親族、名前、食物分配）：1984～

2016

\*都市地域のカナダ・イヌイット研究（都市生活、社会問題）：1996年～2012年

\* アラスカのイヌピアット研究（捕鯨と分配、儀礼）：2006年～2013年

\* カナダ北西海岸先住民研究（アート）：1997年以降、特に2017年～現在

\* その他、グリーンランド、カムチャツカ半島、米国ニア・ベイなどで調査

\* 本日は、カナダ・イヌイットの社会・文化変化の研究について話す。対象は、ヌナヴィク（北ケベック州極北地域）のアクリヴィク村とモンリオールに在住のイヌイット。

### 3. カナダ・イヌイットの歴史

- ・ 約1000年前にアラスカから移動してきたチューレ文化の担い手（捕鯨民）
- ・ 1500年代以降の寒冷化により捕鯨民から狩猟・漁撈民へ
- ・ 1530年代～1920年代初め 捕鯨者との遭遇と接触
- ・ 1920年代：ホッキョクキツネの罨猟と毛皮交易、キリスト教化
- ・ 1930年代後半：結核の蔓延
- ・ 1950年代：カナダ政府の介入の強化
- ・ 1960年代末：定住化
- ・ 1975年以降、ランド・クレーム協定の締結：「ジェームズ湾および北ケベック協定」（1975）、「イヌヴィルイト協定」（1984）、「ヌナヴト協定」（1993）、「ラブラドル協定」（2005）

### 4. カナダの極北イヌイット社会の変化—アクリヴィク村を中心に—

#### 4.1 大学院生時代（1980年代）

- ・ 民族誌に出てくるイメージ「雪の家に住む」「アザラシの生肉を食べる」「犬橇を駆る」
- ・ カナダでは「エスキモー」ではなく「イヌイット」
- ・ 調査許可と調査拒否（1984年）
- ・ 見知らぬ地への小型飛行機を乗り継ぐ旅はアドベンチャー

#### 4.2 アクリヴィク村での調査（1984年8月～1988年9月）

- ・ 狩猟・漁労活動（アザラシ猟に行かない）
- ・ 現金の必要性（電化製品と狩猟道具、食料、家賃、電話代）
- ・ 毎食がホッキョクイワナ
- ・ 命名と名前
- ・ 家族・親族と食物分配
- ・ 短縮化・小規模化する夏キャンプ
- ・ 異文化の異なる認識（時間）
- ・ キリスト教と村内対立（古老 VS 若者・中年）

#### 4.3 日本からアクリヴィク村調査に行く（1990年12月～2004年2月）

- ・北極のクリスマス（キリスト教と共同性）
- ・シロイルカ猟とセイウチ猟とハンター・サポート・プログラム（公的な分配制度）
- ・フランス語を話すイヌイット（ケベック州の主権とイヌイット）

#### 4.4 アクリヴィク村への最後の訪問（2016年11月）

- ・インフラの整備の進展（交通網・通信網の発展）
- ・料理の変化と伝統食への回帰
- ・インターネット時代とフェイスブックの利用
- ・旅するイヌイット（移動、移住、休暇中の旅）

### 5. カナダの都市イヌイット社会の出現と変化

#### 5.1 1996年の民博の共同研究「都市の先住民」

- ・オタワ、モントリオール、フレディリクトンで予備調査
- ・1996年から2012年まで毎年、モントリオールにおいて先住民友好センターやモントリオール・イヌイット協会のボランティアをしながら調査を実施。

#### 5.2 1997年と2004年のインタビュー調査

- ・モンテリール先住民友好センターの David Mohan 氏の協力を得て調査を実施。
- ・マキヴィク（北ケベック・イヌイットの政治経済団体）、アバタック文化研究所、モントリオール先住民友好センター、シェ・ドリでインタビュー調査
- ・ホームレスや生活困窮、社会問題に直面する孤立した都市イヌイットの存在
- ・Victor Mesher らによるモントリオール・イヌイット協会の設立と月例夕食会の開催
- ・モントリオール・イヌイット協会の挫折

#### 5.3 2012年の政策提言のための協働調査

- ・都市イヌイットの現状を懸念したマキヴィクから依頼
- ・Donat Savoie と Annie Pisuktie との二人三脚
- ・調査報告書をもとに Donat Savoie が政策提言

#### 5.4 増加する都市イヌイットと第3世代の出現

- ・都市で生まれ育った第3世代の出現
- ・Annie Pisuktie らによるケベック州南部イヌイット協会の結成
- ・モントリオールでの Mark Watson (Concordia University) のイヌイット・ラジオ放送プロジェクト（“Nipivut”＝我々の声）

### 6 カナダ・イヌイット研究を振り返る。

- ・急激な社会変化を遂げるカナダ・イヌイット社会（グローバル化、気候変動、環境汚染、都市への移動など）
- ・食文化の変化
- ・社会問題（自殺、暴力、飲酒、麻薬、失業、教育、病気）

## 7 今後の課題

- ・気候変動やグローバル化などの多様なテーマに関する研究が実施されている。応用的・実践的研究の増加。
- ・イヌイットのウェルビーイングのための研究：現地調査による現状や社会変化の把握に基づく社会的諸問題の解決を目指す研究。
- ・イヌイットとの協働による調査研究やイヌイットが主導する調査研究へ
- ・北海道立北方民族博物館に感謝

## おもな参考文献

岸上伸啓

- 1998 (2005) 『極北の民 カナダ・イヌイット』弘文堂
- 2005 『イヌイット 「極北の狩猟民」のいま』(中公新書) 東京：中央公論新社
- 2007 『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』京都：世界思想社
- 2012 『北極海の狩人たち—クジラとイヌピアットの人々—』札幌：風土デザイン研究所
- 2014 『クジラとともに生きる アラスカ先住民社会の現在』京都：臨川書店
- 2022 「カナダにおける都市在住イヌイットの社会・文化変化—モントリオールを事例として—」『人文論究』91: 37-53。
- 2022 「イヌイットの生きがいとウェルビーイング — 狩猟・漁撈活動と賃金労働」『季刊民族学』179: 24-33。
- 2023 「カナダ極北地域に生きるイヌイット—生活の現状と問題」『極地』59(1): 46-51。
- 2023 「先住民研究における新たな展開について——カナダの場合を中心に」『人文論究』92: 13-26